

訪問船  
「えとぴりか」

# 令和元年度第1回 北方四島交流訪問事業 参加報告

北方領土担当:古賀委員

2019 07 05

## 訪問事業の概要

- ・訪問期間：令和元年7月5日（金）～7月8日（月）
- ・訪問団：児玉団長以下64名  
    家族会：牛島佐賀県会長、古賀委員
- ・地震火山専門家チーム6名
- ・医療専門家チーム8名
- ・訪問先：色丹島、択捉島



## 訪 問 日 程

7月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出港</li> <li>・国後島フルカマップ湾: 入域手続き</li> <li>・色丹島アナマ湾へ</li> </ul>		<p style="text-align: center;">入国と言わず入域 日本の意地？</p>
7月6日 色丹島	アナマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産加工工場見学</li> <li>・住民交流プログラム</li> <li>・アナマ消防署見学</li> <li>・夕食交流会</li> </ul>	<p style="text-align: center;">予定通り実施</p>
	シャコタン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人墓地訪問</li> <li>・学校・幼稚園訪問</li> <li>・スポーツ施設、商店視察</li> </ul>	
7月7日 択捉島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・料理交流</li> <li>・墓地清掃・墓参・墓地修復</li> <li>・温泉地見学</li> <li>・ホームビジット(5名程度のグループ毎)</li> </ul>		<p style="text-align: center;">予定通り実施</p>
7月8日 (択捉島)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・自然観察)</li> <li>(・夕食交流会)</li> </ul>		<p style="text-align: center;">急遽訪問中止 根室に向け移動</p>

# 色丹島訪問

出港見送り



色丹島  
アナマ港入港



水産加工工場

- ・120t/日の処理能力
- ・自動化(北欧製)



# 色丹島訪問

アナマの様子  
新旧混在



学校のエアコンは  
三菱電機



新築の学校

シャコタン



工事が進む  
港周辺



未舗装、砂埃

# 択捉島訪問

沖に「えとぴりか」  
舗装された道路



文化会館で  
の交歓行事



料理交流、全員参加



# 択捉島ホームビジット

経営するホテルの窓から



メドベージェ:熊



ロシア語の時間



## 択捉島ロシア人との会話から

Q 日本では、若者は都会志向、地方では過疎化が進む  
択捉島ではどうか？ 島の魅力は何か？

A ・択捉島は自然の宝庫

- ・飛行機もあり、都会に遊びに行きたければいつでも行ける
- ・1ヶ月(冬期)の休暇も有る
- ・特に生活には困らない
- ・島の若者も色々、大学等で外に出て戻らない人、戻る人と両方
- ・結果としては、人口はほぼ変わらない(減っていない)
- ・ここ5年程、インフラ整備等が進み若い人が戻ってきている
- ・私にとって、この島は故郷

夫: チェチェンの近く出身、建築家(自作のホテル開業間近)

妻: 子供の頃両親とベラルーシから択捉へ(両親は帰国)

ジャーナリストとしてウラジオ勤務後、択捉に戻る

ビザなし交流で日本へは8回訪問



## 所 見

- ・4島に対するロシアの経済発展計画は着実に成果  
(ただし4島間に格差あり。 齒舞、色丹<国後、択捉)
- ・ロシア人島民にも故郷の意識の芽生え？(一部？)



- ① 国として (「新しいアプローチ」に期待しつつも)
  - ・返還:他の離島同様、過疎、無人化が進む可能性大
  - ・返還後の発展も含めて4島運営に覚悟が必要
  - ・4島の発展のみでは不可、道東に元気がなければ魅力なし
- ② 国民として
  - ・国民が4島を忘れた時＝日本の領土を放棄する時
  - ・「返せ」だけではない、色々な共存の方法があるはず  
(終戦直後、日露人は共存、靴を脱ぐ文化、共用墓地)
  - ・署名運動で直ぐに返還が実現するわけではない
  - ・しかし、忘れない努力として継続し続けることが大切

# トピック(牛島会長大活躍)

色丹島墓参、謡曲(高砂)を墓前に奉納

